

●報 告

臨床高気圧治療技師認定委員会報告

古山信明*

1. 第1回臨床高気圧治療技師認定試験実施まで

の経緯

平成11年1月22日の平成10年度第2回理事会において、昨年、野口監事（当時理事）から提出された技師認定委員会、技師認定試験委員会人事が承認され、若干の委員を補充し、認定試験実施の体制が立ち上げられ、平成11年2月20日の平成10年度第3回理事会で認定試験委員会に出題者を振り分ける機能を持たせ、技師認定に関する委員会は認定委員会と認定試験委員会の二本立てとすることとした。

平成11年5月8日の平成11年度第1回理事会で第1回技師認定試験実施案が若干の修正の上承認され、業務の一部を安全協会に委託することとなり、小村専務理事と調整を行った。業務は委員会、学会、安全協会で分担することとなった。平成11年6月5日、安全協会に対し業務委託をお願いし、後日、安全協会の理事会で審議され承認された。

平成11年6月21日、認定試験出題者に対し、問題作成依頼のお願いを発送した。

平成11年7月24日の平成11年度第2回理事会で理事長より有資格者に行った受験意志に関するアンケート調査の結果が報告された。受験意志を表明したのは110名であった。

委員長より認定試験準備状況と今後の作業について報告し了承された。

平成11年8月6日、第1回技師認定委員会および技師認定試験委員会を開催し、これまでの経緯を報告し、業務を確認した。認定試験委員会は引き続き認定試験委員より回収した問題を基に、問題作成作業を、8月6日、7日、8日の3日間

行った。

平成11年8月9日、安全協会に問題の印刷を依頼した。平成11年8月10日、眞野理事のご協力を得て、東京医科歯科大学に試験会場を選定した。

平成11年8月28日、9月11日の2回、試験問題校正を行い、安全協会に印刷を依頼した。

平成11年9月25日、理事会に先立って認定委員会、認定試験委員会を東京医科歯科大学で開催し、これまでの経緯の報告がなされ、試験当日の業務分担などを確認した。理事会では受験者は65名であることが報告された。

平成11年9月26日、第1回高気圧治療技師認定試験が実施された。受験者は全員出席であった。

2. 認定試験に対する認定試験委員会の基本的態度と実行

試験である以上、公正であることが不可欠の条件であり、試験問題の漏洩をはじめ不正な事態が生じることは絶対に避けなければならないことであり、とくに問題作成にあたっては慎重な上にも慎重な配慮が必要である。認定試験委員は、所属する施設に受験資格者がいれば試験問題作成に関わらないことが原則であり、今回の認定試験の実施にあたり、まず委員全員に所属施設に受験資格者がいないことを確認した。当然、今後、認定試験に対する信頼性を確保するため自施設に受験資格を有する技師が生じた場合には認定委員を辞退してもらう方針である。

認定試験問題は分野別に検討、選別、修正、改変を行い、試験問題の全容をどの委員も知り得ないように作成作業を行った。

試験問題の印刷は安全協会に委託し、全試験委員がどこで印刷され、当日までどこで保管されているかわからないように問題の作成と印刷を完全

* 臨床高気圧治療技師認定委員会委員長

に分離した。試験問題は試験当日に試験会場に搬入された。

試験問題の公開については委員の間で種々の意見が交わされたが、公開すれば第1回認定試験の問題を知り得た次回以降の受験者が圧倒的に有利であり、問題を知り得ない第1回認定試験の受験者の不利益は大きく公正を欠くこと、出題の領域が臨床工学技士や看護婦の国家試験に比べ、著しく狭く受験技術だけで合格してしまう可能性があること、したがって試験の回を重ねるごとに問題作成が困難になり、重箱のスミをつつくような問題が増す恐れのあること、全国的にみても資格試験の問題がすべて公表されているわけではなく、現実には公表を避ける趨勢にあること、認定試験であり資格試験ではなく、現時点での自らの力量を知りさらに向上を目指す出発点であるという認識であること、などの理由で公表はしないということで認定試験委員会の合意を得た。

3. 出題基準について

認定試験実施要項には、出題範囲として講習会テキストおよびこれまでの講習会で講師が講義した内容と記されているが、第1回認定試験の結果を踏まえて、若干の解説を加える必要があろうかと思われる。

第1回認定試験の出題基準は実施要項に基づき、午前2時間、午後2時間で各75問、計150問とし、1問あたり平均約100秒で解答でき、受験者の80%が合格することが想定できることとし

た。出題形式は多肢選択式とし、設定された5肢の解答のうちから正解の1肢を選択する単純択一形式と正解の2肢あるいは3肢を選択する多真偽形式の両者を採用した。構成形式は、記憶していればできる想起型、意味を解釈して解答する解釈型、記憶、解釈、計算などを経て解答を導く問題解決型の3種の形式とした。

4. 問題作成について

認定試験委員および若干名の認定試験出題者に問題作成を依頼し、基本的には臨床工学技士国家試験を参考にした。とくに出題者には上記の条件に加え、問題の選択形式、構成形式が偏らないよう配慮し、合格者の正解率が高く、不合格者の正解率が低くなるように問題の難易に留意していただくようお願いしたため、短期間での問題作成に多大のご迷惑とご苦労をおかけした。出題者から回収した問題は、認定試験委員会で設問表現、語句の統一、改変、訂正など最終的に調整し試験問題とした。

5. 解答方法と結果の処理

解答はマークシート方式とし、結果はコンピュータ処置をして合否の判定をした。最高得点者は120点（正解率80%）、最低得点者は51点（同34%）で、平均点は89点（同59%）であった。第1回の受験が不利にならないよう考慮し、受験者の78%にあたる51名を合格とした。